

第2次系魚川市環境基本計画

令和2年度 進捗状況報告書

令和3年2月1日

ここでは、5つの施策（基本目標）ごとに掲げた数値目標と市の役割として設定した取組の中から主な活動を抜粋し、進捗状況を説明しています。

報告書内の数値目標の表の中で、現状欄に記載されている数値については、現時点で把握できる直近の数値を用いています。

基本目標1

地球にやさしい人が育つまち = 地球環境 =

■数値目標

環境指標	策定時	現状	目標
CO ₂ 排出量 (単位：千t-CO ₂)	557.1 (2013年度)	480.3 (2017年度)	412.3 (2030年度)
新規就業者数（林業）	2人 (2015年度)	15人 (2019年度) <small>※2015年度からの累計数</small>	22人 (2023年度) <small>※同左</small>
再生可能エネルギー 利用公共施設数	34施設 (2018年度)	34施設 (2020年度)	40施設 (2023年度)
市民の再生可能エネルギー 設備の導入状況	217件 (2018年度)	219件 (2019年度)	230件 (2023年度)

【詳細説明】

- ・「CO₂排出量」は、減少傾向です。
- ・「市民の再生可能エネルギー設備の導入状況」の件数は、補助制度利用件数であり、2019年度はペレットストーブ設備で2件ありました。

■市の取組

取組方針1 地球温暖化の緩和策の推進	
	地球温暖化に資する賢い選択（COOL CHOICE）を周知することで、市民・事業者等の意識啓発や自発的な取組の促進を図ります。

【詳細説明】

- ・年に2回、「にいがたCOOL CHOICE（クール チョイス）省エネキャンペーン」が行われ、このキャンペーンの周知を実施しました。年々申込者の数が増えており、啓発活動のツールとして定着しています。

取組方針3 再生可能エネルギーの導入促進	
	自然資源を活用した再生可能エネルギーの導入の促進や未利用資源を活用した導入の可能性について情報提供をします。
	再生可能エネルギーを利用した発電事業を検討している事業者に対し、関係者との調整を行います。

【詳細説明】

- ・再生可能エネルギーの導入促進について、情報提供や調整を行いました。
- ・湯沢川及び楯谷（しなたに）川では、小水力発電を検討している事業者があり、進捗状況の共有や関係機関との調整を行っています。

基本目標2

生きものと大地の営みを感じるまち = 自然環境 =

■数値目標

環境指標	策定時	現状	目標
新規就農者数	6人 (2015年度)	32人 (2020年度) ※2015年度からの累計数	38人 (2023年度) ※2015年度からの累計数
認定農業者数	165人 (2015年度)	162人 (2019年度)	200人 (2023年度)

【詳細説明】

- ・「認定農業者数」では、農業従事者の高齢化が進み、策定時より減少しています。

■市の取組

取組方針5 生物多様性保全と持続的な利用

外来生物の生息・生育状況の把握に努め、効果的な分布域の縮小方法を検討します。

【詳細説明】

- 令和2年度、田海ヶ池外来生物駆除事業を実施しました。貴重なトンボ類の幼虫を保全しながら外来生物を駆除することを目的として、7月から10月にかけて捕獲、駆除を行いました。
- 貝類、エビ類、水生昆虫、両生類など12種類ほど貴重な水辺の生物が生き残っていた一方で、オオクチバス230個体、ウシガエル（幼生）92個体、アメリカザリガニ80個体など、多くの外来種を駆除しました。

取組方針6 暮らしが息づく農村環境の継承

イノシシやサルなどの野生鳥獣の生息情報の把握に努めると共に、情報提供及び、「糸魚川市鳥獣被害防止計画」に基づき被害防止策を推進します。

【詳細説明】

- 令和元年度、野生鳥獣のうち、イノシシ724頭、ニホンジカ63頭、小型獣238匹を捕獲しました。
- 令和2年度、有害鳥獣集落環境診断調査事業を来海沢集落にて実施しました。有害鳥獣対策について、何から始めたら有効的なのかを、住民と行政、そして専門家が一緒に考え話し合い、問題を解決していく取組です。令和3年度も継続して行う予定です。

基本目標 3

物を大切に使い、資源が循環するまち = 資源循環 =

■数値目標

環境指標	策定時	現状	目標
1人1日当たりのごみ総排出量	1,005g (2018年度)	1,010g (2019年度)	911g (2030年度)
1人1日当たりの家庭系ごみ排出量 (資源系除く)	635g (2018年度)	638g (2019年度)	551g (2030年度)

【詳細説明】

- ・「1人1日当たりのごみ総排出量」は、わずかですが増加しています。人口が減少している中で一人が1日に排出するごみの量が増加しているということが課題です。ごみの減量に向けての啓発活動が重要と考えます。

■市の取組

取組方針7 ごみの減量化・3Rの推進

出前講座や体験学習などを通じて、幼保小中学生や一般市民がごみの減量化やごみ処理、リサイクルの意義が理解できるように支援します。

【詳細説明】

- ・令和2年度、エコライフ出前講座 20回（参加者623名）
〔主催：一般財団法人上越環境科学センター〕
- ・市民向けの出前講座や学生の学習活動の場で、質疑応答も交えて深い理解を得られるよう調整など支援を行いました。

取組方針8 ごみの適正処理の推進

分別区分については、次期ごみ処理施設の稼働や廃棄物に係る社会情勢の変化などに応じ見直していきます。

【詳細説明】

- ・令和2年度から新ごみ処理施設の稼働により、家庭ごみのうち、概ね30センチ以下の「プラスチック製品」や「ゴム・皮革製品」を「燃やせるごみ」として出せるよう分別方法を変更しました。
- ・これにより、「燃やせないごみ」の令和2年4月から令和3年1月までの排出量が、前年度比で58%減少しており、最終処分量の減少を図っています。

基本目標4

安全・安心、みんなが笑顔で暮らすまち = 生活環境 =

■数値目標

環境指標	策定時	現状	目標
大気環境・水環境に関する環境基準値達成割合	83.3 % (15/18 項目) (2018 年度)	77.8 % (14/18 項目) (2019 年度)	88.8 % (16/18 項目) (2023 年度)
環境美化パートナー団体数	14 団体 (2018 年度)	20 団体 (2020 年度)	20 団体 (2023 年度)
環境デーの実施地区	116 地区 (2018 年度)	104 地区 (2020 年度)	125 地区 (2023 年度)

【詳細説明】

- 「大気環境・水環境に関する環境基準値達成割合」について、令和2年度、大気環境では光化学オキシダント（Ox）、水環境では生物化学的酸素要求量（BOD）、浮遊物質（SS）、大腸菌群数で未達成の個所がありました。
- 「環境美化パートナー団体数」は、令和2年度は目標数を達成しました。引き続き環境美化にご協力いただけるよう周知してまいります。
- 環境デーの実施地区について、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により実施を控える地区があったため、減少しました。

■市の取組

取組方針9 環境公害の継続的な監視と抑制

継続した騒音・振動、悪臭の調査及び監視体制を維持・継続します。

【詳細説明】

- 令和元年度の環境基準達成率は84.8%となりました。引き続き、高速道路や国道の騒音等について調査を実施してまいります。

取組方針10 非常時の安全・安心に向けた対策の強化

環境基準値の異常や汚染が認められた場合は、関係機関と連携して迅速な対応を講じます。

事業者や市民間の騒音や振動、悪臭による近隣トラブルに対して速やかな対応を図ります。

【詳細説明】

- 令和元年度の騒音、振動、悪臭による苦情件数は14件、そのうち処理件数は14件で処理達成率は100%となっています。

基本目標 5

一人ひとりが行動し、環境保全に取り組むまち = 環境行動 =

■数値目標

環境指標	策定時	現状	目標
出前講座の開催数	19回 (2018年度)	ごみ分別出前講座 21会場 672人 (2019年度)	25回 (2023年度)
ジオパーク検定 合格者数(累計)	1,803人 (2018年度)	1,942人 (2020年度)	2,100人 (2023年度)

【詳細説明】

- 「ジオパーク検定合格者数(累計)」については、初級、上級、達人級とあり、令和2年度の検定までで延べ1,942人がそれぞれの級に合格しています。

■市の取組

取組方針 12 環境に対する意識啓発と情報提供

環境への意識啓発の機会として、イベントや学習会を開催します。

【詳細説明】

- 一般市民向けの出前講座を21会場、672人を対象に実施しました。多くの方から普段気になっていた分別方法について質問をいただき、正しいごみの出し方など理解を深めていただきました。
- 令和2年度環境フェアについては、新型コロナウイルス感染症の感染予防対策のため、中止としました。